

石井垂穂の履歴について（個人）

〔回答〕

ご照会の石井垂穂（いしい・たりほ）の履歴につき、この人物をまとめた単行書は、これまで刊行されておられません。ただし、この人物を詳述した雑誌論文として下掲のものがあります。

(イ) 石田元季「鶉衣と石井垂穂」

（『芸文』8巻10号 大正6年10月号所収 p.78~86. <当館請求記号 雑8-54>）

同論文は、石田元季『俳文学論考』（奈良 養徳社 昭和19<910.-I72-I>）の355頁から363頁にわたって、再録されております。

(ロ) 石田元季「垂穂石井八郎次源孝政」

（『紙魚』昭和4年4月号所収 当館では所蔵していません。石田元季『俳文学考説』の14頁の参考文献による）

垂穂の著作には、『鶉衣続篇』をはじめとして、『片假字考』『水替り前篇』『垂穂草』など、俳諧、詩歌、随筆に関する多くの著述がありますが、これらについては下掲の文献が参考になると思われます。

(ハ) 石田元季「石井垂穂著述書目解題略」

（『典籍之研究』第4号所収 当館では所蔵していません。日比谷図書館『伝記資料索引』第1巻2冊 昭和4年刊による）

さらに、垂穂の仕官・官歴についての文献として尾張藩の、

(ニ) 『藩士名寄』

（写本140冊。『図書総目録』第6巻によれば、蓬左文庫に所蔵されている）

が、㊦の426頁に参考文献として紹介されております。

なお、ご照会されているような比較的まとまった文献としては、

(ホ) 『名古屋市史』 人物編第2

（名古屋 中部経済社 昭和43 復刻<GC133-1>）

の石井垂穂の項（p.425—426）があり、項末に若干の参考文献が添えられております。

〔紹介〕 御府内備考続編目録

東京都公文書館編 B5

タイプ印刷 102頁 昭47

朱引内の社寺調査に欠くことのできない文献である、『御府内備考』続編は、細目なく不便の状態で今日まで来たったが、ここに、原本所蔵の東京都公文書館で細目を作製したのは、やるべき機関がやったという感じがして、喜ばしい。記述は、巻順に、社寺名、住所、本寺、朱印、巻数、附図の有無で、巻末に略解説を行なってある。その末に、当館旧幕書中にもあると記されているが、これは誤りで、欠巻の転写本である。当館でも細目の必要を感じ、ペン書の細目が案内のデスクに置いてある。巻順の社寺名目録であるが、『寺社書上』との一致不一致を記してある。『寺社書上』を整理して、この続篇となったものと解釈できるが、いかがであろうか。続篇本文の完全翻訳は未だ行なわれてない。